

気体検知管【ガステック】 使用時の注意点

実験方法

- ①気体検知管の両はしを付属のチップホルダで折り取り、『G▶マーク』がついている方のはしにゴムのカバーをつける。




- ②気体採取器のハンドルが押し込まれた状態で、気体検知管の矢印が気体採取器を指す方向に向けて取り付ける。
 ③気体検知管に書かれている、取り込む気体の量を確認し、気体採取器本体の矢印とハンドルの数字を合わせる。
 ④気体採取器のハンドルを一気にカチッと音がするところまで引き、ハンドルがもどらないことを確認して待つ。
 ⑤決められた時間がたったら、目盛を読み取る。



気体採取器（新型）の吸引量切り替え方法

ハンドルが黄色の新型採取器は、ハンドルにガイドマーク「50▲▲」と「10▲」の数字が片面ずつ印字されており、吸引量50mLと10mLの両方に対応できるようになっています。酸素用検知管31E-2（吸引量10mL）を使用するときは「10▲」のマークに合わせてください。

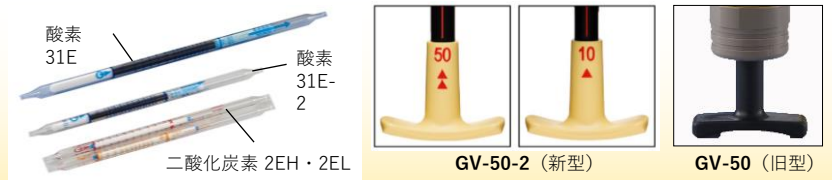
注意点

- 必ず**安全めがね**をかける。 
- 気体検知管の切り口で**けが**をしないようにする。
- 酸素用検知管は熱くなる**ので冷めるまで直接さわらない。
- 気体検知管は**矢印の向き**に注意して正しく取り付ける。
- 気体検知管で**水を吸い込んではいけません**。
- 検知管を取り付けた気体採取器を**ふり回したり、人に向けたりしない**。
- 気体検知管と気体採取器は同じメーカーの物を使用する。
（ガステック製と光明理化学工業製に互換性はありません。）

■検知管と気体採取器の対応表

検知管	吸引量	気体採取器	
		GV-50-2（新型）	GV-50（旧型）
酸素 31E-2	10mL	○	×
酸素 31E	50mL	○	○
二酸化炭素 2EL	50mL	○	○
二酸化炭素 2EH	50mL	○	○

（気体採取器GV-50（旧型）は酸素検知管31E-2は使用できません。）



理科教育を支援する

公益社団法人 日本理科教育振興協会

TEL. 03-3294-0715 ホームページ <http://www.japse.or.jp>